

経営事項審査を改正する必要性について

資料4 - 1

改正の目的

建設業を取り巻く環境変化に対応した適切な企業評価

公共マーケットにおける適正な競争の実現

厳しい環境に対応した企業の経営努力を後押し

建設産業政策の流れ

建設業を取り巻く環境の変化

- ・建設投資の減少による過剰供給構造の深刻化と地域企業の疲弊
- ・独禁法改正等による競争環境の変化

不良不適格業者の参入、ダンピングなど、不適切な競争が行われる懸念

業界の再編淘汰、ビジネスモデルの転換は不可避

公共マーケットにおける競争環境の整備が必要

再編や経営形態の多様化の妨げになる制度があれば、改正が必要

競争環境整備の手段

- ・一般競争入札
- ・総合評価
- ・入札バンド
- ・多様な発注方式
- ・**経営事項審査制度**
- ・法令遵守体制の強化

建設業関連の諸制度

- ・許可制度
- ・**経営事項審査制度**
- ・技術者制度
- ・入札制度全般

現行の経営事項審査の問題点

- ・完工高偏重の評価は市場の評価と乖離するとともに、利益や社会的責任を重視すべき企業行動を歪める側面
- ・経営状況の評価が中小企業の評価を大きく左右し、企業の実態と合わない評価となる傾向
- ・単体評価を原則としているため、企業集団の総合力が反映されない。

見直しの方向性

- ・施工実績、利益、資本ストック等をバランス良く評価
- ・生産性の向上、企業経営の効率化の努力を妨げない評価
- ・企業の自由な経営形態や再編を妨げない的確なグループ評価
- ・社会的責任の果たし方によって差のつく評価

企業規模による特性を踏まえた企業評価のあり方について

目指すべき方向 求められる役割

経審の現状の課題

見直しの視点

大手企業
(全国展開の
ゼネコン)

多様な建設
業者の存在

中堅・中小企業
(地場建設業者)

零細企業
(個人営業に近い
建設業者)

- ・企業価値の向上
- ・より高度な技術力の追求
- ・再編や経営形態の多様化
- ・国際競争力の向上

- ・地域経済の担い手としての経営の質の向上(採算管理能力や生産性の向上)
- ・施工技術の一層の向上
- ・地域社会への貢献(防災活動等)
- ・雇用の確保と労働福祉の充実

- ・適切な施工

- ・完工高を中心とした現状の評価は、市場の企業評価と乖離
- ・施工以外も含めた企業経営の総合力を評価しづらい(川上の評価がない)
- ・職員数や技術者数での評価は不合理な面(生産性の観点や技術開発に対する評価が希薄)
- ・単体で評価しているため、企業集団としての総合力を評価できない。

- ・経審の指標等を強く意識した経営が行われる傾向
- ・完工高に基づく規模評価は一定の合理性があるも、利益軽視の風潮(受注競争)を助長
- ・地域への貢献、労働福祉向上への取り組みが十分に評価されていない。
- ・Yの実質ウエイトが高いため、企業実態に比べ過大な評価が行われることがある。
- ・ペーパーカンパニーの排除が不十分

- ・ペーパーカンパニーの排除が不十分
- ・Yの実質ウエイトが高いため、企業実態に比べ過大な評価が行われることがある。
- ・制度や申請事務が複雑

- ・市場における企業価値は、一般的には利益や自己資本を中心に評価
- ・再編や多様な経営形態の選択、生産性の向上を妨げない柔軟な制度設計

- ・完工高だけでなく、利益等の面も考慮した評価
- ・企業の継続的な「地力」を評価するため、ストックの蓄積も重視
- ・地域貢献や労働福祉を重視した評価
- ・技術者の質の評価
- ・ペーパーカンパニーに対しては低い評価

- ・施工実績等の企業の実態に見合った評価
- ・ペーパーカンパニーに対しては低い評価
- ・制度の簡素化